



コロンビア共和国



「障害のある紛争被害者のソーシャルインクルージョン」プロジェクト

活動報告 Vol. 2

本プロジェクトは、2015年3月から5年間の計画で、障害のある紛争被害者を含む障害者のソーシャルインクルージョン実現のための戦略作りを目的とし、障害者のエンパワメント、啓発活動、アクセス改善等の活動を実施します。

◎ 7月:障害者に対する事前調査の実施（ベースライン調査の準備）

プロジェクトが始まって6か月が経ちました。今回は、7月、8月、9月の活動を報告いたします。

プロジェクトサイト（アンティオキア県グラナダ市、サンタンデール県エル・カルメン・デ・チュクリ市）においてベースライン調査を実施して障害者のニーズを把握することは、このプロジェクトの一番目の重要な活動です。7月は、ベースライン調査の実施部隊となるコンサルタントとの契約準備をするとともに、両市の市街地以外の地域（へき地）の状況やそこに住む人々の生活の様子を把握するために事前調査を行いました。

両プロジェクトサイトの中には国内紛争の爪痕が残り、不発弾や地雷が残る地域もあるため、事前調査の訪問地域は警察や軍隊、市役所関係者からの情報を基に安全な地域だけを



グラナダ市の村落地区

（グラナダ市 撮影：Natalia Molina（ローカルコンサルタント））

対象としています。可能な限りの情報を集めるために、地区長や住

民にも協力してもらい、山中に点在する障害者の住む家まで足を運びました。

物理的なアクセスは本当に悪く、道はもちろん舗装されておらず、山を越え、川を越え、1時間以上も道なき道を歩き、ようやく一つの集落に辿り着くという状況でした。事前調査を通じ、障害者が家から出ることが困難な環境にあることを再確認しました。



事前調査対象者の住む家までの険しい道
を進む専門家

（エル・カルメン・デ・チュクリ市 撮影：山田）

事前調査対象者は、市役所の障害者登録簿より抽出しました。対象者の中には非障害者の可能性が高い人や、家族全員に知的障害があると見受けられるにも関わらず、「障害はない」、「不便なことは何も無い」、「なぜ教育など受けなければならないのか」と主張する人もいました。一方で、住民から登録簿には載っていない障害者の情報が次から次へ寄せられたりしました。紛争被害者や障害者登録システムの不備、情報アクセスの問題などで障害者数が正確に把握出来ていないという問題点も明らかになりました。

さらに、偏見や迷信が蔓延していることも大きな問題です。ある日、一人暮らしの精神障害者の家を探していた時のこと。近所に住む人がその方の家まで案内してくれましたが、「彼は若いころに魔女に黒魔術をかけられたからあのような（障害者）になったんだ」とのこと。このような偏見や迷信は、

未だに信じられているそうです。

ある紛争被害者は、痛々しい記憶が蘇ったようで、涙ながらに経験を語ってくれました。閉じ込められた記憶はこれまで語られず、心の傷を抱え苦しんでいる人がまだまだ多いことが分かりました。私たちは耳を傾けることしか出来ませんでした。が、「話を聞いてくれて嬉しかった」という方もいたので、“感情の解放”に焦点を当てたピアカウンセリング¹のような心理的なケアの重要性を改めて感じました。

この活動を通し、へき地に暮らす住民の生活の様子を把握出来たとともに、これまで準備してきたベースライン調査の方法などに修正が加えられました。また、障害者のニーズやその人たちを取り巻く、物理的なアクセスがないことはもちろん、教育や情報アクセスの不備等々、社会的な問題も明らかになりました。



紛争被害にあったときの話をする障害のある紛争被害者と市役所関係者

(エル・カルメン・デ・チュクリ市 撮影：山田)

◎ 8月：コンサルタントの決定と社会調査の短期専門家のコロンビア訪問

8月中旬に地元のコンサルタントと契約を結びました。調査全体を取り仕切り、データ分析を担う Econometría と、データ収集を指揮してデータを管理する SEI という二つの会社と共同で調査を行うことになりました。彼らはコロンビアだけでなく他の国でも調査を数多く実施した経験を持つ社会調査のプロフェッショナルです。

早速、25日と26日に研修会を開催し、ベースライン調査の方針や質問項目、事前調査で明らかになったことなどについて議論するとともに、“障害”についての認識を共有しました。また、同時期に、社会調査を専門とする西野短期専門家から、社会調査について助言をいただきました。そして、研修会では、どのように情報を整理していくのか、時間軸に沿って何をどのタイミングで実施すべきかなどについてアドバイスして下さいました。

この2日間で、関係者の間で共通認識を持つことが出来たと思います。



本プロジェクトの方針を解説する奥平専門家
(中央)

(メデジン市 撮影：山田)



ベースライン調査の方向性を確認する関係者

(メデジン市 撮影：山田)

◎ 9月：アンケート調査員の研修と選抜、ベースライン調査の開始

社会調査を実施するためにはそれぞれの市の人口に見合った数の対象者に調査を実施することが必要です。1か月半弱という短い期間で、グラナダ市の500人とエル・カルメン・デ・チュクリ市の900人にベースライン調査を実施するため、両市で複数のアンケート調査員を雇用しました。

9月の中旬には調査員の候補者が決まり、エル・カルメン・デ・チュクリ市で21日～25日、グラナダ市では28日～10月2日と彼らに対する研修会をコンサルタント会社と協力して開催しました。研修会では、プロジェクト内容の説明、調査の目的、障害者やその家族に対する話し方、地雷や不発弾の被害にあわないための遵守事項、調査員としての心得、データ入力方法を含む調査方法についてなど多くのことを扱いました。候補者は、真摯に研修に臨んでおり、試験結果、研修態度、調査のロールプレイでの振る舞いなどを総合して、優秀なアンケート調査員が選ばれました。安全第一で多くの障害者の生の声を収集してほしいと思います。

今回の研修を含め、これまで両市においてプロジェクトの説明会や“障害”についてのセミナーを開いてきたこともあり、へき地はともかく市街地では障害者に対する住民の認識が随分変わってきたように感じます。これも活動の一つの成果です。

◎ 今後の活動について

ベースライン調査がいよいよ本番を迎えます。この調査を通じ、へき地に住む障害者の声が聞こえてくると思います。これまでに明らかになった問題点と共に、彼らのニーズに合わせ、プロジェクトでは活動を実施していく予定です。

文責：山田卓也、奥平真砂子



本プロジェクトの内容とベースライン調査の目的を話すカウンターパートのLady氏(中央奥)と受講生

(エル・カルメン・デ・チュクリ市 撮影：伊藤(青年海外協力隊))

ⁱ ピアカウンセリングとは、障害者同士が対等な立場で話を聞き合うことで、悩みや辛さなど心の内を聞き合って支え合うとともに、自立生活のための知識や経験などの情報交換を行う手法である。